

開館30周年記念

みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)

■参加費：無料(ただし、常設展もしくは特別展観覧料が必要)

*毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。



実施日・話者・話題・場所 ※ 詳細は、ホームページをご覧ください。都合により、予定を変更することがございます。

12月2日(日)

印東 道子 (民族社会研究部教授)
オセアニア・ラピタ土器の謎
於: 特別展

2008年

1月6日(日)
福岡 正太 (文化資源研究センター准教授)
ガムランのリズムを体験しよう
於: 音楽展示

1月20日(日)

笹原 亮二 (民族文化研究部准教授)
ハレのかたち
ー日本の文化展示から
於: 日本の文化展示

12月8日(土)

広瀬 浩二郎 (民族文化研究部助教)
フリーバリアという生き方
ー元気の出る「点字力」講座
於: 展示場内休憩所

1月13日(日)

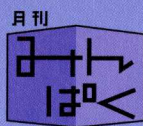
南 真人 (研究戦略センター准教授)
2064年のネパール
於: 展示場内休憩所

1月26日(土)

三島 禎子 (民族社会研究部准教授)
セネガルのガラス絵
於: アフリカ・テーマ展示

編集後記

駅のホームや電車車内にいると、ケータイメールをしている人の姿がすぐに視界に飛び込んでくる。20年くらい前だと、これがマンガ週刊誌を読んでいる青少年やサラリーマンであった。すでに活字離れが叫ばれていたそのころ、マンガは、青少年の健全な知能と道徳の育成を阻害するとして、受験生を抱える親や教師たちにずいぶん敵視された。いつのまにか、マンガが他の活字媒体よりいちだん低くあつかわれることはなくなっている。「マンガなんかばかり」読んでいた世代がすでに大人になり、日本マンガを世界市場に送り出すのにも成功している現在、マンガはとくに市民権をえたということか。販売部数は1990年代以降落ちこんで、出版業界は不振がささやかれているが、それでもマンガはかなりの売り上げを維持している。しかし、プレスやゲームボーイにハマったポスト・マンガ世代の若者たちがもともと社会に出ていくころには、活字離れをとおりに過ぎて、印刷媒体離れがより進んでいるだろう。そろそろ冷静にマンガと日本人の関係を考えることができる時期が来ている。マンガは、高度経済成長期以降の日本の繁栄と足取りを同じくして爆発的な人気を誇った民衆娯楽として、日本文化史のなかで記憶されていくのではないだろうか。(櫻永真佐夫)



次号予告 / 1月号特集
ネズミ

2007年 12月号

第31巻第12号通巻第363号
2007年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

編集委員 池谷和信(編集長) 櫻永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

